

恕の心



令和4年1月17日 校長 廣瀬 真樹

「丸内中 生徒玄関への道！」



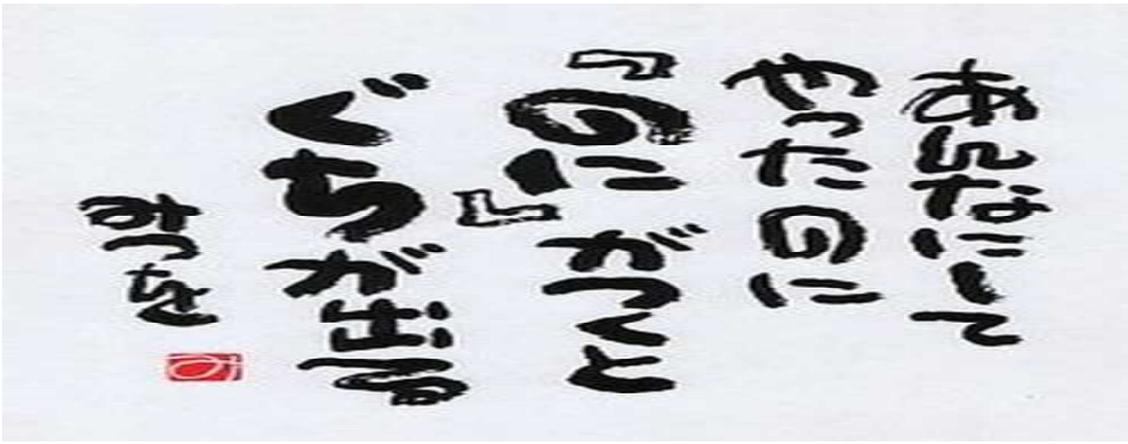
朝、嫌な予感がして目を覚ますと、雪がしっかり……「また積もったか☹️」とつぶやきながら、慌てて学校に出勤すると、もうすでに……………

早く出勤した先生方がどうも雪かきをしてくださったようです。もちろん自転車小屋の横の道も開いていました。

今年度はこんなことはこれが初めてではありません。まだまだ雪の日は続きそうですが、もちろん、学校で雪かき係を決めているわけではありません。まえもってお願いしておいたわけでもありません。そしてその先生は「私がしました」と自分からはいっさい言いません。

「あ・り・が・と・う」の反対は「あ・た・り・ま・え」といいます。皆さんは登校した時にこの玄関への道をどんな気持ちで通りましたか？気が付きましたか？道は開いているのがあたりまえと思いましたが？

「日常の当たり前」の中に感謝できることがたくさんあると思います。それに気が付ける人であってほしいと思います。



相田みつをさんの書です。短い言葉ですが見事です。さてこの書、よく読むと「あんなにやっただのに」ではなく「あんなにしてやっただのに」なんです。ね。「あんなにやっただのに」なら「あんなに自分は頑張ったのに結果が伴わない」ってことですが「あんなにしてやっただのに」となると「あんなに頑張っただのためにあなたのために何かをしてあげたのに、結果として、見返りが無いなんて」ってことになります。つまり相手の反応に不平不満があるってことです。また『私はこんなにやっているのに、あなたはそんなこともできないの(してくれないの)』っていう場合もあると思います。

【まいた種は必ず生える】しあわせのタネをまくからしあわせの花が咲くのです。昔の人はこれを「情けは人のためならず」といいました。人に情けをかける、親切するのは、人のためではない、最終的には親切する自分の徳になるということです。あの人のためにやっているんだ。あの人のためにしてあげてるんだ。人のため、人のため、と思いつけるものではありませんよ、というのが「情けは人のためならず」です。

自分が与える立場の時は「こんなにしている」の心を忘れるように努めていかねばなりません。自分がもらう立場である時は、続けてくれればくれるほど、それを当たり前せず、感謝の心を失ってはならない、ということですね。難しい心がけですが、一歩なりとも前進していきたいものです。

「『オレが、オレが』の『我』を捨てて『おかげ、おかげ』の『下』で暮らせ」という言葉もあります。「オレがいなければ何もできなくせに」「いつもオレばかりが苦勞している」と思っている『オレが、オレが』の『我』を捨てて「周りのおかげで上手くいっている」「みんなが苦勞してくれたおかげでできた」と感謝していく・・・

これは実は「そう思うように努めなさい」というよりも、たいていの場合、それが真実なのです。結局、どんなにできる人も、いろんな方のおかげさまで自分が生かされているのだと私は思います。

